

－進路開発を意欲的に進められる生徒の育成を目指して－

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①進路指導の充実

ア 生き方・在り方を深く模索し、幸福な社会と自己実現を図ることができる3年間にわたるキャリア教育の進め方を企画調整会議ならびに職員会議において周知を図った。令和2年度にはさらに委員会として組織的に具体的な検討と方策の策定に取り掛かる。

イ 新教育課程のグランドデザインをイメージ図として作成・決定し共有した。令和2年度にはキャリア教育の検討と連動させ、具体的な教育課程編成の裏付けとして完成させていく。

②上級学校への進路を的確に実現できる学校

ア アドバンスシステムのさらなる充実を検討し、土曜講習の講師陣充実にむけた取り組みを教務部に当たらせ、令和2年度へ向けた体制作りを進めている。

イ 進路指導部と学年担任が意図的組織的に連携を強め、学力の比較的高い生徒を組織的に指導を行った。

ウ 大学進学方法について、出口指導においては推薦と一般の二兎追うのではなく焦点を絞るよう指導させた。3年生の早期に決定し、それぞれ相応しい学習指導を行った。一般入試において複数の4年制大学に合格した生徒が現れた。

エ 専門学校進学希望者には、将来の職業選択に資する学校選択のため、進路指導部ならびに学年に積極的な研究会参加と研究を行わせ、適切な指導助言を継続した。

③学習の習慣化と基礎・基本の定着を保障する学校

学習習慣が十分に身に付いていない生徒が多く見られること、また、学習方法が十分に理解できていない生徒に対しての指導を一層充実させた。

ア 定期的な教科会の開催による学習内容検討を促した。日常の学習課題の徹底を目指し、生徒に課す学習課題の内容と量の是非を、定期的に見直しつつ、効果的な課題提出を求めさせた。

イ スタディサプリを効果的に活用し、日常の学習課題・宿題の提示を行い、効果的な個別指導と学習意欲の喚起を図った。

ウ 自習室を継続的に使用する生徒を援助する体制を、教科担当者、担任だけでなく外部講師等を効果的に採り入れ発展させる方針を令和2年度には検討していく。

エ 学力向上推進校の指定を活用し、基礎・基本の充実を図った。述べ 90 名の生徒が取り組みを利用して基礎学力向上に取り組んだ。

④部活動の活性化

部活動の活動成果を学校全体で祝福するとともに、ホームページへの掲載、垂れ幕の掲示によって地域住民等にも周知する取り組みを行った。校内にも同様に掲示して学校全体の喜びであることを強調した。当該部活動のみならず、活動意欲の高揚が期待できる。

⑤基本的生活習慣の定着

学校への帰属意識を養い、望ましい自己の確立を期して、基本的生活習慣を徹底させる。

ア 登校時の校門指導を生活指導部、学年担任を中心に通年通じて実施した。

イ 頭髪・服装指導を継続実施し、生徒のキャリア開発の意識向上を図った。

ウ 効果的な遅刻防止指導をキャリア開発指導と連動し検討している。

エ スクールカウンセラー、専門医の派遣事業等を効果的に活用し教員の知見を深めると共に生徒の抱える問題に対応した。

⑥効果的な募集広報活動の実施

低迷を続けている状況から脱し、気力漲る学校づくりを目指し、効果的な募集広報活動を工夫した。

ア 『学校案内』の内容の刷新。

⇒写真部生徒が撮影した在校生の姿を多用し、表現を刷新した。

イ 学校ホームページの全面改訂。

⇒令和 2 年度募集活動の開始に合わせて都共通フォーマットに移行し、見やすく分かりやすい画面作りと頻繁な情報提供を継続している。

ウ ツイッターを活用した広報の開発。

⇒ツイッターを開設しホームページと共に情報提供を開始した、徐々にフォロワーが増えている。

エ 一人の教員が、特定の担当中学校を受け持つ、中学校担当制度の導入。

⇒受け持ち中学校への 3 回の訪問を実現した。本校の正確な状況を伝える一助となり、応募倍率の増加が見られた。

オ 広報活動の重点地域の検討。

⇒在校生の居住地、近隣地域の塾への広報活動を積極的に行い、本校の入学選抜方式についての説明を行った。

カ 学校説明会の増回開催。

⇒1 月 2 月 3 月にそれぞれ個別相談会を開催し、応募者の増加に繋げた。

⑦国際理解教育の継続

グローバルな視野を育成するための国際理解教育を今後も継続する。

⇒姉妹校との連携協力関係を強固なものとし、交流授業において英語教育を推進し、姉妹校生徒と将来の社会・生活についてディスカッションを計画している。

⑧施設・設備の整備

老朽化が著しい本校校舎等にあつて、「危ない」「汚い」「古い」の順に整備対象箇所等を見出した。防災上優先順位の高い施設から改修工事を開始した。

⑨学校経営

ア ライフ・ワークバランスの浸透を図り、全職員の心身ともに健やかな就労環境を維持するための工夫に取り組む。

- i. 会議の短縮化。：企画調整会議並びに職員会議は効率化を図り概ね1時間以内に修了した。
- ii. 採点や成績処理の機械化の検討。：1教科がマークシート活用の考査採点を実践した。また、成績処理は全教科で実践している。
- iii. 各種統計資料の処理等の機械化導入。：各種アンケート調査にスタディサプリのアンケート機能活用を検討したが、生徒のスタディサプリ活用率が低く実施に至らなかった。令和2年度から日常の家庭学習でのスタディサプリ活用を活性化していく。
- iv. 長時間労働の防止。：こまめな勤務状況の確認と声掛けにより、各職員の業務取り組みの効率化を図らせている。

イ 若手職員の育成

若手職員が多数在職している状況に鑑み、授業力向上及び校務分掌の実力がさらに向上することができるよう、校内研修として分掌業務の実践と分掌内OJTの実践を行っている。

事務職員の力量向上を期して、行政研修として毎朝の打ち合わせ時に業務の進行管理と共にOJTの実践を行っている。

ウ 効果的な学校経営に資する予算の投下

学校経営計画の実現に向けた、自律経営推進予算を効果的に投下するため、委員会から具体的な校務・施設改善の方策を提案させ令和2年度自律経営推進予算編成に盛り込んだ。

2 重点目標と方策（数値目標）

- 四年制大学進学率40%以上 ⇒**C**
- アドバンストシステムの継続率85%以上 ⇒**A**
- 1日1時間以上の学習習慣化率40%以上 ⇒**C**
- 中途退学者数10名以内 ⇒**B**
- 部活動定着率90%以上 ⇒**B**
- 年間延べ遅刻者数7,000名以内 ⇒**C**

○学校説明会・見学会等の来校者数 3,500 名以上 ⇒B

○入学者選抜倍率 学力に基づく選抜 1.00 倍以上 ⇒A